

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年7月31日現在）

今月の重点活動

■指導農業士 指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催

7月19日、指導農業士会飛騨支部が夏季経営研修会を開催した。様々な分野で人手不足が言われている中、飛騨地域の指導農業士が一堂に会し、農業分野の労働力確保に向けた取り組みについて視察及び室内研修を行った。JAひだ高山トマト選果場では、今年度から特定技能外国人を雇用しており、受け入れ時期や人数、住居の手配についてなど、多くの質問が出された。また、技能実習生を受け入れているほうれんそう生産者を視察し、技能実習生の受け入れ経緯や、就労状況また住環境について説明があり、指導農業士の関心も高く、活発な情報交換がされた。

農業普及課では、12月に計画されている新規就農者激励会の開催に向け、支援を行うとともに、今後も飛騨地域の担い手育成に取り組んでいく。



【視察研修の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■飛騨名農会 飛騨名農会夏季セミナー

飛騨の産地形成と発展に貢献してきた農家で構成する飛騨名農会では、会員の研鑽と交流を目的とし、7月19日に高山市内において夏季セミナーを開催した。

セミナーでは、「地域が元気になる産業の発展方向を考える」をテーマに、大規模なほうれんそう調製場を建築した農業者や、多品目の葉菜類の溶液栽培に取り組む法人、3Sシステムによるトマト生産に飛騨地域で始めて取り組んだ農業者、新規参入でトマト生産に取り組み、外国人雇用や農家レストラン等を展開している法人、県内で初めてワイン用ブドウの栽培と醸造に取り組む農業者の経営状況を視察した。知恵と工夫を生かした経営に加え、新規参入者の新たな取り組みは、会員に大きな刺激となるとともに、飛騨地域の農業の新たな展開を感じさせるものとなった。

農業普及課では今後も飛騨名農会に対する活動支援を通じて、地域の発展や活性化につながる取り組みを継続する。



【ワイン醸造に取り組む経営体を視察】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■夏秋パプリカ 天敵活用実証のための現地検討会を実施

高山市内のパプリカ生産者などで組織する「グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会」では、昨年度から国の補助事業を活用し、天敵等の活用による持続可能な栽培技術の実証を行っている。

7月2日に、高山市内生産者ほ場に実証関係者が集い、天敵の活用方法に関する現地検討会を実施した。当日は資材メーカー担当者を講師として各種害虫の対策について確認したほか、農業普及課から各生産者ほ場での天敵定着状況について説明した。

演習の中で生産者が自ら害虫の観察力を高め、また生産者同士で情報交換を行うなど有意義な検討会となった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携して天敵定着状況を調査し、持続可能な栽培体系を構築するための事業推進に取り組む。



【生産者と関係者で天敵を観察】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 各地区でトマト出荷基準目揃え会を開催

飛騨蔬菜出荷組合トマト部会は、本格的な出荷を前に出荷規格や着色基準を確認し、高品質なトマトを安定出荷することを目的に7月上～中旬にかけ、各地区で目揃え会を開催した。

本年度は梅雨入りが遅れ6月に高温が続いたため、生育が前進し、出荷量は前年のペースを上回っている。

本年度から選果効率を上げるために出荷規格の変更がされているが、市場関係者からはこれまで大きな問題は発生していないことが報告された。また、競合産地の出荷動向や販売情勢の報告もあり、他県産地も順調な生育をしていることが報告された。

農業普及課からは、基本管理の重要性や病害対策の他今年初めて県内で被害が確認されたトマトキバガの情報提供と対策を呼び掛けた。今後も現地巡回などの活動によりトマトの安定生産支援を継続していく。



【栽培管理の徹底の呼び掛け】

■モモ 飛騨桃統一目揃え会を開催

JAひだ果実出荷組合協議会は、飛騨桃の本格的な出荷を間近に控えた7月19日に、飛騨桃統一目揃え会を開催した。

今年の飛騨桃は、晩霜害やカメムシ類の被害が一部みられる地域もあったが、生育は良好に進んでおり、昨年と同時期の7月下旬から本格的な出荷を迎えた。

目揃え会では、JA全農岐阜及び市場4社の担当者より、他産地の出荷状況・販売方針等の情勢報告や、市場への積極的な出荷について要望が出された。さらに、果実を手に取りながら熟度や着色について目揃えを行い、出荷基準や出荷要領の確認を行った。

農業普及課からは、今年の気象推移やモモの生育状況について情報提供を行うとともに、モニタートラップの調査結果を基にした害虫の発生状況や今後の発生予測の説明を行った。

今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や病虫害発生状況の把握、病虫害防除暦の作成等を実施し、果樹の安定生産に向けて支援していく。



【統一目揃え会の様子】

■宿儺かぼちゃ 研究会圃場審査会（飛騨全域）を開催

第11回宿儺かぼちゃ研究会圃場審査会が7月22日に開催された。

宿儺かぼちゃはヘチマのような独特の形状と灰緑色で縦縞のある表皮が特徴で、ホクホクとした食感と上品な甘みが消費者受けする特産品となっている。一方、表皮が薄いため病虫害防除などの高度な栽培技術が必要であり、農業普及課では当初から基本栽培体系の確立に向け、生産者とともに歩んできた。

現在は123名の会員で栽培され、研究会では栽培技術の向上、生産者同士の切磋琢磨のため、栽培管理の上手な生産者を表彰する圃場審査を毎年実施している。農業普及課は審査員として、圃場の管理、着果状況、病虫害対策の実施等の観点から審査を行った。

本年は、梅雨の影響による病虫害被害も少なく、良質なかぼちゃの出荷が期待されるため、今後も仕上げに向けた栽培管理や防除指導を行っていく。



【圃場管理の状況进行评估】